

家庭内における非家族成員による家事の代替可能性
— フィリピン駐在の日本人主婦のメイド雇用の実態から —

**Housework Substitutability by Non-Family Member at Home:
How Do Japanese Housewives in Philippines Turn to Rely on Their Maids?**

山本理子（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程）

【ねらいと目的】

日本では、戦後、近代家族の成立により、私的領域は公的領域から切り離され、情緒的な関係を基礎とした家族において、主婦化した女性が家事育児といった再生産労働とその責任を主として担ってきた。その背景には、一部の家事での機械化による負担の軽減とともに、家事の省力化や、クリーニングや惣菜の購入などの家事の外部化がさまざまに組み合わせられて可能になっているという物理的・現実的な側面がある一方、家事に「愛情表現」という意味が付与され、主婦の手によって家事育児がなされること自体に価値が見いだされるようになったからである。また、家族が私的領域として確立したことで、非親族が恒常的に私的領域としての生活空間に入り込む機会は減少している。

しかし、メイドはアジア諸国をはじめ多くの国で、いまなお家事育児負担を解決する重要な手段である。では実際に、メイドになじみがなかった現代の日本人主婦に、メイドを雇用する機会が与えられた場合、家事負担に付与されてきた愛情表現というイデオロギーはどう変化するのか。また、メイドでは代替できない家事として何が残るのか。メイドを（特に住み込みで）雇う場合には、家族／家庭という私的領域はどのようにとらえられるのか。本研究は、フィリピン・マカティ市で、日本人主婦を対象にインタビュー調査を行い、日本人主婦にとってメイドを雇用するという経験がどのようなものか記述し、以上の問いを明らかにする。

【活動の記録】

2008年10月18日

インタビュー調査協力者の紹介を2人に依頼する

10月20日

インタビュー調査協力者の紹介を1人に依頼する

11月6日・12日・24日・27日・30日・12月3日・4日・10日・12日・15日～18日・
24日・2009年1月5日・20日～22日・27日・2月10日

インタビュー調査1件

調査者：山本理子、調査地：フィリピン国マカティ市、

調査目的：日本人主婦によるメイド雇用の実態調査

2008年11月28日・12月5日・19日

インタビュー調査2件

調査者：山本理子、調査地：フィリピン国マカティ市、

調査目的：日本人主婦によるメイド雇用の実態調査

2009年1月7日

京都大学訪問（資料収集）

1月8日～10日

日文研シンポジウム聴講

1月11日

GCOE 次世代ワークショップ聴講

1月14日

京都大学訪問（資料収集）

【成果の概要】

本研究では、雪だるま式サンプリングにより、最終的に28人の日本人主婦を対象に、メイドを雇用する生活・経験について、半構造化されたインタビューを実施し、そのインタビューデータを内在的に分析した。

メイドを雇うことは日本ではあまりなじみのない経験であるため、当初は言葉も文化も異なるメイドの雇用に対して当惑した人も多かった。しかし、メイド雇用の目的は、純粋に家事の代行を目的としたものというよりは、海外生活における独特の不便さの解消（飲料水のデリバリーや家の修理のための留守番）や不測の事態にそなえて生活の安全のためである。また、メイドの雇用が人々のあいだで一般的であると、日本人コミュニティもメイド雇用が前提で運営されることもあり、そのためにメイドが必要になることもある。

メイドによる家事代行は、アイロン、掃除、皿洗い、洗濯については委託しやすいが、料理、ベビーシッター、買い物については、大きく意見が二分され、すべてを委託する人から、あまり委託したくない人まで落差がある。それは、雇用者側のニーズだけでなく、メイド側の態度や能力にも起因する面が強い。主婦の役割は、家庭生活の管理という側面が強くなり、主婦がメイドの雇用によって家事負担の軽減し、情緒的に安定することが、他の家族成員への貢献とみなされる。それは家事負担＝愛情表現という図式とは異なり、感情マネージそのものがより重視されるといえる。

ただ、メイドの家事代行による主婦の家事負担の軽減がもたらされる一方で、雇用主とメイドという関係はつねに一定以上の緊張を私的領域にもたらしている。それは、主婦とメイドのあいだにときとして生じる家事決定をめぐる主導権争いにくわえ、私的領域に存在する他者の視線がもたらす緊張、あるいは雇用主とメイドのあいだの文化的な違い、経済格差を前提とした関係であることに起因するトラブルなどによる。日本人のネットワークでは、労働条件やトラブルの事例をはじめ、メイドにまつわる情報が頻繁に交換され、そのような言説が各家庭における雇用主とメイドとの関係に影響すると考えられる。